

座間市と基地

はじめに

座間市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、17.57㎢の市域に約13万2千人の市民が暮らす、人口稠密な都市で、在日米陸軍司令部や第一軍団（前方）司令部、基地管理本部と陸上自衛隊座間駐屯地が共同で使用する「キャンプ座間」が所在しています。

本市の基地の歴史は、昭和12年に東京市ヶ谷台から陸軍士官学校が移転したことに始まります。昭和20年の終戦後は、米軍に接收され、以来、80年以上にわたって米陸軍基地キャンプ座間として存在し続けています。



また、昭和46年には陸上自衛隊の施設部隊の一部が移駐し、座間分屯地として米陸軍と共同使用が始まりました。そして、平成18年5月には、在日米軍や自衛隊の配備を見直す「再編実施のための日米ロードマップ」が日米両政府から共同発表され、平成19年に米陸軍第一軍団（前方）司令部がキャンプ座間に設置され、平成25年3月には、陸上自衛隊中央即応集団（CRF）司令部がキャンプ座間に移転し、「陸上自衛隊座間分屯地」から「陸上自衛隊座間駐屯地」に変更されました。

このようなキャンプ座間をめぐる動きに対して、4年余にわたり反対運動が展開され、それに対し国は、「司令部機能が強化され、座間市及び同市市民に対する新たな負担となるもの」と認め、平成20年8月に国と市の間で「確認書」を取り交わし、「キャンプ座間に関する協議会」を設置することになりました。そして、それにあわせて、市議会、自治会等各種公共的団体の代表等で、「座間市基地返還促進等市民連絡協議会」（現在は「座間市基地返還等市民連絡協議会」）が設置され、その中で、それぞれの立場からの意見等を伺いながら、これまで「キャンプ座間に関する協議会」の協議の場に臨み、粘り強く着実な対応を図ってきました。

整理・縮小・返還の具体として、キャンプ座間の一部、約5.4haが平成28年2月29日に返還されました。返還地の活用にあたっては、防衛省、在日米軍、特に現地米軍の格別の配慮により、座間総合病院、陸上自衛隊家族宿舎、消防庁舎、スカイグリーンパークの全ての施設整備を令和4年3月31日までに終わることができました。日本の安全保障環境について、米軍の駐留が日米同盟に基づく国家安全保障には不可欠であることを現実的に受け止め、基地を抱える市として、米軍とその関係者との良好な信頼関係を構築することは極めて重要です。今回の返還地の活用については、日ごろからの相互の交流、意思の疎通の大きな成果であると感じています。今後も良き隣人として自衛隊、米軍と共に、幅広く地域に密着した活動を展開していきたいと願っています。

また、本市に隣接する綾瀬市・大和市に所在する厚木基地の米海軍空母艦載機に起因する航空機騒音は、長年にわたり、市民生活に多大な苦痛と不安を与え、大きな障害となっていましたが、神奈川県及び関係市との粘り強い要望の結果、平成30年3月30日に全ての空母航空機部隊が米海兵隊岩国基地に移駐し、空母帰港に伴う騒音は大きく減少しました。

しかしながら、移駐後も時折、厚木基地にジェット戦闘機等が飛来し、また、空母艦載機着陸訓練の際には、厚木飛行場が予備飛行場に指定されるなど、今後も騒音被害が発生する懸念は完全には払しょくされていません。今後の厚木基地の運用も含め、引き続き注視していきたいと考えています。

基地問題は、国の安全保障の為の必要性を受け止めることと、市民の生活環境と安全を守ることとの間で、しっかりと整合を図ることが求められる難しい問題ではありますが、市民の皆様のご理解の下、市議会並びに関係自治体と連携し、今後とも粘り強く取り組んでまいります。

本書（第8改訂版）により、基地が所在する本市の実情をご理解いただくとともに、基地行政の参考にしていただければ幸いです。

令和5年3月

座間市長 佐藤 弥斗

目次

	ページ
■ 第1章 座間市の概要	
1 地勢	1
2 変遷	2
3 人口の推移	3
■ 第2章 キャンプ座間	
1 概要	4
2 在日米陸軍	6
3 陸上自衛隊	12
4 基地と市民生活	16
■ 第3章 厚木基地	
1 概要	25
2 米海軍厚木航空施設	26
3 海上自衛隊	29
4 騒音問題と市民生活	31
■ 第4章 市財政と基地	
1 国有提供施設等所在市町村助成交付金	52
2 施設等所在市町村調整交付金	52
3 再編交付金	54
4 基地周辺の環境整備	57
■ 第5章 基地政策の推進	
1 基地に関わる要望活動	65
2 米軍再編～第一軍団司令部のキャンプ座間移転について～	65
3 協議機関	73
■ 第6章 市議会の取組と活動	84
□ 資料編	87